

令和6年度

栄小学校

3年生

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

# 西東京ふるさと探究学習

単元名：わたしたちのまち「栄」  
(活動名)

ねらい：校歌に描かれた在りし日の地域の姿について課題をもち、探求した内容を保護者や他の学年に伝える活動を通して、自分たちの地域に対する理解を深めるとともに、自分たちの地域を築いてきた人々の存在を知り、自分たちも地域の原風景を次世代に伝えていこうとする意識や、自分たちも地域の発展を担っていこうとする意識を醸成するため、本単元を設定した。



【9月】

「栄に川がある!？」。市の地形図を見ていると、そこにはあるはずのない川が…。現地を歩いてみると、いまは暗渠になっていることが分かりました。



【10月】

「校歌に出てくる“けやきの森”“菜の花畑・麦畑”“牛（小屋）”なんて、今はどこにもない!」。いつまで、どこにあったのか!? 資料で調べました。



【12月】

資料で調べてきたことは、本当なのか!? 栄の移り変わりを実際に見て来られた地域の方に、くわしくお話をうかがいました。



【1月】

「西東京カルタ」を通して、地域の人たちから、ふるさとのよいところを教えてくださいました。  
また、これまでに調べたことを家族に伝えるために、準備を進めました。

## まとめ コラム

3年前、入学してすぐに何の疑問も抱かずに覚えた、栄小の校歌。その歌詞には、不思議なところがいっぱいでした。普段、当たり前だと思っているところに、さまざまな探究の入り口があるのかもしれません。麦畑の中を小川が流れ、屋敷林が生い茂っていた栄の原風景を、子供たちが次世代に伝えていってくれることを願っています。